



男女共同参画通信



3月8日は「国際女性デー」

国際女性デーとは

1904年3月8日、アメリカで婦人参政権を求めて起きたデモをきっかけにヨーロッパ等でデモや労働運動が広がりました。その後、国連は1975年を国際婦人年とすることを宣言し、毎年3月8日を「国際女性デー」と制定しました。

誰もが働きやすい環境の実現へ

日本においては、平成27年に「女性活躍推進法」が公布され、女性が「女性だから」という理由で制限をかけることなく生き生きと働ける環境の実現に向けた取り組みが進められています。しかし、大事なことは女性への支援を増やすことだけではなく、男性も含めて互いの働き方を変えていくことです。多様な働き方が認められれば、女性も男性も、育児・介護・家事や地域活動との両立がしやすくなります。それは、誰もが自らの希望する生き方が選択でき、より充実した心豊かな暮らしの実現に繋がります。

「国際女性デー」を、誰もが個性と能力を十分に発揮できる職場や社会の実現について考えるきっかけとしてみてはいかがでしょうか。

女性と持続可能な開発目標 (SDGs)

SDGsは2015年9月、ニューヨークの国連本部にて193カ国の合意のもと採択された、2030年度までに達成すべき17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標」です。SDGはすべての国の達成目標であり、日本政府もその達成にコミットしています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



5 ジェンダー平等を 実現しよう



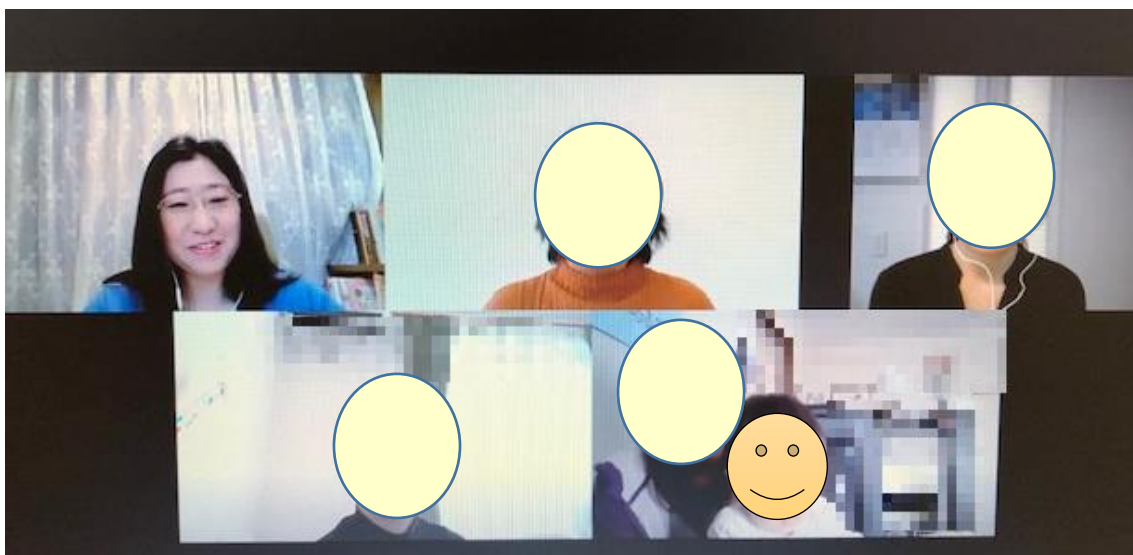
SDGs「5」は、ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図ることを目標としています。「目標5」は、他のすべての目標と不可分であると明記されています。ジェンダー平等はSDGsの実現になくてはならない横串です。

イタリアでは

3月8日は「ミモザの日」と呼ばれ、女性に感謝を込めて、母親や妻、友人、会社の同僚などに、愛や幸福の象徴でもあるミモザが贈られています。

事業報告

仕事と子育ての両立をサポート！ オンライン子育ておしゃべり会



講座は ZOOM を使用し「仕事と子育ての両立」をテーマに双方向で対話をしました。

新型コロナウイルスの影響により外出を制限され、様々な不安や悩みを抱える0歳から3歳の子をもつ保護者を対象に、ファシリテーターが対話をおして参加者の気づきを生み出していきます。

～ 参加者の声 ～

- ☆1時間は短いように思ったが、子どもがいるとちょうど良い時間でした。
- ☆コロナ禍でも他のママと話ができて良かった。
- ☆オンラインなので試しに参加してみたが、アットホームな雰囲気思ったより楽しくて良かった。

ファシリテーター



福田 潔子 氏
(NPO 法人ハートフルコミュニケーション
理事・認定ハートフルコーチ)